

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 青少年多文化学びサポート

1. 事業名称

青少年多文化学びサポート

2. 事業の目的

多言語・多文化を背景とする所沢市および近隣在住青少年(小学生～20才くらいまで)の学校生活および生活全般にかかわる日本語の学びを直接・間接に支援する。

3. 事業内容の概要

日本語教室開催・研修会開催・教材作成

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年9月14日 10:00～12:00	2時間	所沢市生涯学習推進センター	池上・池嶋・小川・岡寫・小田・栗原・鈴木(幸)佐藤・持丸	1. 自己紹介 2. 事業経過報告 3. 今後の会合・研修会・教材作成等予定 4. 課題:財政不足	1. 内部講師研修会スケジュール 2. 教材作成スケジュール 3. 財政不足補完方法
2	平成24年12月14日 15:00～17:00	2時間	所沢市役所201会議室	飯泉・池嶋・大野・小川・岡寫・鈴木(雅)・斉藤・小田・持丸	1. 事業経過報告 2. 今後の予定 3. 来年度のこと	1. 冬休み教室広報 2. 研修会 3. 意見交換会参加 4. 次回運営委員会 5. 助成金申請
3	平成25年3月8日 15:00～17:00	2時間	所沢市役所401会議室	池嶋・小田・鈴木(雅)・持丸	1. 事業経過報告 2. 今後のこと	1. 春休み教室広報 2. 助成金申請 3. 教育センターへの講師登録

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称 青少年多文化学び教室
- (2) 目的・目標 多言語・多文化を背景とする所沢市および近隣在住青少年(小学生～20才くらいまで)の日本語および教科のマナビを支援する。
- (3) 対象者 所沢市および近隣在住の多言語・多文化を背景とする小学生～20才くらいまでの青少年
- (4) 開催時間数(回数) 183.5時間 (全 130回)
- (5) 使用した教材・リソース
- (6) 受講者の総数 19人
- (出身・国籍別内訳 中国9人, 米国3人, ペルー2人, 台湾2人, フィリピン2人, ブラジル1人) *国籍は日本の場合も多い。
- (7) 受講者の募集方法 案内チラシ(教室全体の紹介・夏休み教室・冬休み教室)を市内小・中学校には学校教育課、公民館・図書館・コミュニティセンターには社会教育課を通して配布。定時制高校・市内カトリック教会へは直接持参。
- (8) 日本語教室の具体的内容

新所沢公民館

回数	開催日時	時間数	参加人数	出身国	取組テーマ	授業概要
31回	火曜 17:30-19:30	62時間	2人～8人	中国8・台湾2・ペルー1・ブラジル1	各自	漢字・教科書理解・宿題・進学相談

狭山ヶ丘コミュニティセンター

33回	水曜 17:30-18:30 (19:30)	36時間	1人～3人	米国	各自	漢字・日本語読解補助・宿題
24回	木曜 17:30-18:30	24時間	1人～2人	米国	各自	漢字・日本語読解補助

松井公民館

3回	水曜 10:00-12:00 13:00-15:00	6時間	1人	フィリピン	日本語入門	ひらがななど
3回	木曜 13:00-14:30	4.5時間	1人	フィリピン	日本語入門・相談	ひらがななど

西富小学校放課後教室

19回	水曜 放課後	19時間	1人	中国	日本語入門	カタカナ・会話・教科書の日本語読解など
-----	-----------	------	----	----	-------	---------------------

長期休暇

13回	夏休み 9:00-11:00	26時間	5人～10人	中国8・台湾2・フィリピン2・ペルー2・ブラジル1	各自	教科書・漢字・夏休みの宿題など
-----	-------------------	------	--------	---------------------------	----	-----------------

4回	冬休み 9:30-11:00	6時間	5人~7人	中国6・台湾1・ペルー1	各自	教科書・漢字・冬休みの宿題・高校入試過去問の日本語読解・進学相談
----	-------------------	-----	-------	--------------	----	----------------------------------

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)



1対1での学習が基本です。低学年の子どもたちには続けて2時間の学習は無理。後半はゲームなど、交流の場になります。

姉妹グループの協力を得て夏休みの料理教室。子どもたちの意外な一面が見られました。将来はシェフかも。

写真が嫌い。曾祖母年代の先生にも出会います。

(10) 目標の達成状況・成果

目標が達成されたかどうかは子どもたちの表情が正直です。時々教室でも乱暴になってしまう子どもの表情が穏やかになってきました。保護者への支援では、問題解決の一助となったことがわかりました。

(11) 改善点について

学習効果を上げるには、子どもの学習環境の多くを占める学校との連携ができるよう、学校での支援をする必要がある。各グループで対応できることではない。国がきちんとした移民政策を立てて、日本に住む子には国籍に関係なく、支援する環境を整え、各教育委員会での十分な予算化を可能にすべき。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

「青少年の日本語学習支援力向上研修」(所沢市生涯学習推進センター共催)

(2) 目的・目標

より良い日本語学習および生活全般の支援によって、日本語を学ぶ青少年の日常生活・学習の質の向上を目指す。

(3) 対象者

情報交換、内部講師による研修は会員のみ。

外部講師による研修は会員と地域日本語ボランティア

(4) 開催時間数(回数) 18.5時間 (全10回)

(5) 使用した教材・リソース 講師作成の資料

(6) 受講者の総数 30 人

(出身・国籍別内訳 日本 29人 ウクライナ共和国 1人)

(7) 受講者の募集方法

広報掲載;所沢市生涯学習広報紙「とびたつひろば」、社会福祉協議会ボランティア広報、開発教育協会ニュースレター。

案内チラシの配布(市内小・中学校、公共施設・社会福祉協議会)

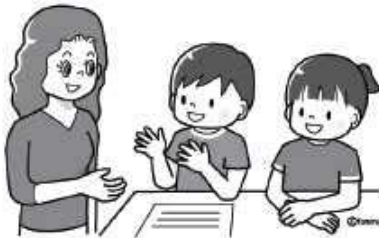
ESMY主催 文化庁委託事業

青少年多文化学び教室

小学生～
高校生向け

参加費
無料!

日本語、教科指導
進路相談 など



- ・にほんごがよくわからない
- ・がっこうのじゅぎょうがよくわからない
- ・かんじがむずかしくておぼえられない
- ・高校へ行きたいけど、どの学校にすればいいかわからない
- ・大学・短大・専門学校へ進学したい

そのほか、いろいろなお相談をききます
※夏休みは、遊びも行います!

日程 (予定が変わる場合もあります。お問い合わせください)

7月23日(月)～27日(金)、30日(月)、31日(火)

8月20日(月)～25日(土) 時間：午前9:00～11:00

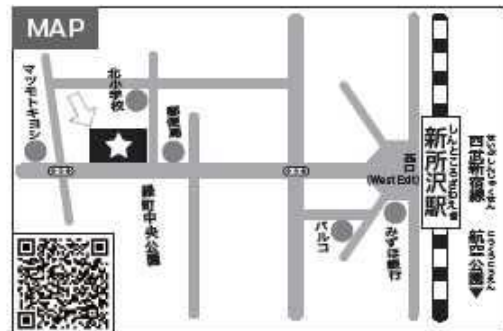
場所

新所沢公民館

所沢市緑町 1-8-3

☎04-2924-2955

※部屋番号は、1階公民館窓口向かい側のホワイトボードで確認してください。



連絡先

所沢市 社会教育課 ☎04-2998-9242

☎00-0000-0000 English

☎000-0000-0000 English/Deutsch

☎00-0000-0000 English

☎00-0000-0000 English/Tagalog

☎000-0000-0000 Portuguese/Español

☎000-0000-0000 中文

※予約をおすすめします!

青少年多文化学びサポート (ESMY: Educational Support for Multicultural Youth)

▼English・中文・Português

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	内容	講義テーマ	講師/補助者	使用教材
1	平成24年7月28日 13:00~14:30	1.5時間	新所沢公民館	8人(会員8人)	情報交換と 内部講師による講義(1時間)	社会科の基礎知識	持丸邦子 ESMY代表/城西大学ほか講師	講師作成の資料
2	平成24年8月25日 11:00~13:00	2時間	新所沢公民館	12人(会員12人)	情報交換と 内部講師による講義(1時間)	算数の概念を教えるための 用語指導方法	鈴木雅明 ESMY副代表	講師作成の資料
3	平成24年9月14日 13:30~15:30	2時間	所沢市生涯学習 推進センター	14人(会員9人、 一般5人)	外部講師による講義(2時間)	青少年の日本語教育事情	池上摩希子 早稲田大学大学院 日本語教育研究科教授	講師作成の資料
4	平成24年9月29日 13:00~14:00	1時間	新所沢公民館	11人(会員11人)	情報交換			
5	平成24年10月27日 13:00~15:00	2時間	新所沢公民館	11人(会員11人)	情報交換			
6	平成24年10月28日 10:00~12:00	2時間	所沢市生涯学習 推進センター	12人(会員8人、 一般4人)	外部講師による講義(2時間)	学校・地域・家庭との連携	馬場幸子 東京学芸大学 総合教育科学系生活科学講座准教授	講師作成の資料
7	平成24年12月1日 13:00~15:00	2時間	新所沢 コミュニティセンター	13人(会員13人)	情報交換			
8	平成24年12月22日 13:00~15:00	2時間	新所沢公民館	12人(会員12人)	情報交換と 内部講師による講義(1時間)	小学校での 国語の文法指導について	栗原淑子 ESMY学校生活アドバイザー	講師作成の資料
9	平成25年1月26日 15:00~17:00	2時間	所沢市男女共同参画 推進センターふらっと	11人(会員11人)	情報交換と 内部講師による講義(1時間)	漢字の学習方法	講師:坂田晶子 ESMYアドバイザー/尚美学園ほか講師 補助者:栗原正憲 ESMY広報	講師作成の資料
10	平成25年2月1日 14:30~16:30	2時間	所沢市生涯学習 推進センター	19人(会員11人、 一般8人)	外部講師による講義(2時間)	中国出身青少年の指導方法	安場 淳子 中国帰国者定着促進センター 教務課教務第一係長	講師作成の資料

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)



1. 情報交換と内部講師による講義 平成24年12月22日 13時~15時

於: 所沢市立新所沢公民館 参加: 会員12名

これまでに蓄積してきた支援者の知識、経験を共有し、教室全体の今後の支援に生かすため、今年度は支援者である会員が講師をつとめる研修を実施した。

①情報交換 13時~14時

- ・平日教室の状況報告 支援対象の子どもの状況、受験指導の進捗状況など
- ・冬休み教室の体制について確認

②講義「小学校での国語の文法指導について」 14時～15時

講師:栗原淑子(青少年多文化学びサポート 学校生活アドバイザー、元小学校教諭)

講義の内容

- ・小学校での文法指導がどの様に行われているか。
- ・文法の学習参考書の紹介
- ・文法指導で留意する点
- ・母語が日本語でない児童への文法指導 など

2. 外部講師による講義 「中国出身青少年の指導方法」

平成25年2月1日 14時30分～16時30分 於:所沢市生涯学習推進センター

講師:安場 淳子先生(中国帰国者センター 教務課教務第一係長)

参加:会員11名、一般8名

同じ所沢市内にある「中国帰国者定着促進センター」の先生方にはここ数年、子どもの指導に関しての研修の講師をお願いしてきた。現在支援をしている子どもの多数が中国出身であることから、指導対象を「中国出身者」に限った実践的研修を企画した。

講義の内容

- ・中国から来日する青少年の来日経緯、課題
- ・背景を知るために:中国の教育事情
教育制度・教育課程、教育の実態、保護者の教育観 など
- ・渡日の中国児童・生徒
学校文化の違いが生む衝突や誤解、言語の問題、進路 など
- ・漢字圏出身の知識が生かせる漢字学習
- ・支援者向けの参考文献・サイト、中国語が母語の生徒向けの教材の紹介

(10) 目標の達成状況・成果

①研修には、会員以外の一般の参加者もあったが、全ての研修終了後会員のみを対象に、研修についてのアンケートを実施した。(回収数 8) 【添付資料:アンケート用紙】

回収数は少なかったものの、その中では

- ・実施回数、1回当たりの時間数については「ちょうどよい」との回答が多数をしめ、今後の研修継続の希望も多かった。
- ・自由回答で、研修内容は「役立っている」「参考になった」「今度活用していきたい」と、評価され、「具体的／実践的で良かった」という感想が見られた。
- ・今後の研修希望として、文字指導、書き順指導、受験指導など、実践的内容の希望と同時に、「子どもの生活全般の問題」「日本語指導」「子どもの指導」など全般的な内容を希望する声もあった。

②ここ数年外部の講師による研修を続け、その成果の上に今年度は「支援力向上」をうたい、外部講師の研修に加え会員を講師とする研修を実施し、定例の「情報交換」も研修の一部と位置づけた。

外部講師の研修で最新の研究成果など実践的知識を得る一方、内部講師の研修・情報

交換では指導方法の紹介・共有、支援についての互いのアドバイスなどが盛んに行われた。研修全体としての満足度は高く、目的とする『より良い日本語学習および生活全般の支援』につながったと考えられる。

- ③外部講師の研修は今年度も一般公開した。近隣市のボランティアや大学院生の参加があり、情報交換を図ることができ、地域への貢献もできたと考える。

(11) 改善点について

日頃、子どもたちに接している小・中学校の教員、あるいは学習支援員と一緒に学べるような日程設定を工夫したい。特に、学習者の多い、中国出身者の支援に関しては、たいへんに有意義な情報を得られたので、支援方法をさらに学習していきたい。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 国語教科書からの日本語文法学習／多角的漢字学習(小4)／算数・数学の基礎用語／社会科の基礎知識
- (2) 対象 小・中学生
- (3) 目的・目標 学習しやすい教材を作成して、子どもたちに使ってもらう。
- (4) 構成 各教材を参照ください。
- (5) 使い方 必要なときに手軽に使う。
- (6) 具体的な活用例 学習日本語の習得に活用する。
- (7) 成果物の添付 PDF で添付

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

多言語・多文化を背景とする所沢市および近隣在住青少年(小学生～20才くらいまで)の学校生活および生活全般にかかわる日本語の学びを直接・間接に支援する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

どの取り組みも実際の活動ですでに活用し、子どもの日本語学習への意欲が積極的になってきた。ただし、それが学校の成績とどのように結びつくかは、学校へ放課後支援に行っている児童に関しては、わかってくるが、ほかはわかりにくい。また、学習意欲は日本語学習だけの影響で変化するとは限らない。親子関係の良し悪しが学習意欲に影響する場合もあるし、学習支援による学力向上で親子関係が良くなることもある。少なくとも、子どもが教室に通い続けていること、早くから来ていることなどは、教室の存在意義を確認する一つの方法だと思っている。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

子どもの日本語学習について、カリキュラム案が項目だけで、内容が掲載されていなかったために、活用できなかった。留学生の日本語指導と異なり、地域での日本語学習に「標準」は、あまり馴染まない。0からスタートする学習者が少ないからである。子どもも大人も母国である程度、日本語を学んできた場合、日本での日本語環境などによ

り、相当の個人差があるからである。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

有力な地域の日本語教育機関である中国帰国者定着促進センターの先生方の研修への協力、子どもの学校の先生方をはじめ、市内小・中学校の先生方にはたいへんお世話になった。多感な思春期にある子どもの支援には、地域の方々の協力は欠かせない。学校の様子を知るのに、PTA 会長さんからもお話をうかがっている。通訳のために、公民館のフランス学教室の主宰者のお力をお借りした。市役所社会教育課・学校教育課・教育センターの職員の方たちもさまざまな形で私たちに支援してくださった。

(5) 改善点、今後の課題について

今まで支援対象になかった子どもが中3になると、突然現れる。その時点で新たに入国してくる場合と以前から在学しているが、支援がなく、入試を前にして、日本語学習の必要性を本人、保護者、教員が自覚する、という場合がある。理想の支援は、来日してすぐに集中した日本語支援を行うことである。それを目指して、人材の育成、支援者の不断の学習、学習を必要とする子どもの早期発掘のための学校との連携など、工夫を続けていきたい。